

**第四次草加市総合振興計画第三期基本計画 振興計画審議会（第5回） 会議録**

日 時	令和5年3月22日（水）19時00分～21時00分
場 所	本庁舎西棟5階 第1・2会議室
出席者	欠席なし（別紙草加市振興計画審議会委員名簿のとおり） <b>【事務局（総合政策課）】</b> 津曲総合政策部長、平木副部長兼総合政策課長、 勝田課長補佐、夢田主幹、日高主任、齋藤主任、三浦主事、高見主事、高木主事
資 料	<b>【資料】</b> 次第 資料17 振興計画審議会での意見等と対応等 資料18 第三期基本計画（個別施策部分）修正案 資料19 第三期基本計画（個別施策部分）について <b>【参考資料】</b> 第四次草加市総合振興計画基本構想・第二期基本計画 第四次草加市総合振興計画実施計画2022 草加市地域経営指針ver. 3 第2期草加市版総合戦略 草加市実施計画2021 第2期草加市版総合戦略 令和3年度進捗管理結果 令和3年度ダイジェストシート結果報告 第四次草加市総合振興計画第二期基本計画の検証結果報告書 令和3年度度施策評価市民アンケート報告書 草加市統計データブック2022 草加市振興計画審議会 質疑書

1 開会

（司会）

第5回草加市振興計画審議会を開催させていただきます。

まず、審議会に先立ちまして、総合政策部長からご挨拶を申し上げます。

**【総合政策部長挨拶】**

（司会）

それでは審議会に移らせていただきます。

まず本日の会議でございますが、出席委員15名、全員となっております。従いまして委員の過半数のご出席がありましたので、草加市振興計画審議会条例第6条第2項に基づきまして会議が成立していることをご報告させていただきます。

続きまして本日の資料を確認させていただきます。

**【資料確認】**

2 会議の公開について

**【会議を公開とする】**

3 傍聴人について

**【傍聴人なし】**

#### 4 会議録の署名委員について

【署名委員：木村委員、山田委員】

#### 5 説明【質疑応答】

##### (1) 第4回草加市振興計画審議会での意見について

(資料17、18に基づき事務局より説明)

(質問・意見等特になし)

(会長)

次第を先に進めさせていただきます。今回は個別施策の2回目、前回は5つのテーマについてご議論いただきました。今回は残りの部分になります。こちらも1つずつ区切って説明いただき、その後質疑応答という形で進めます。ご意見・ご質問はその段階でいただければと思います。

##### (2) 第三期基本計画（個別施策）について

###### ① 施策18「総合的な高年者施策の推進」

(資料19に基づき事務局より説明)

(会長)

草加市では高齢者ではなく高年者という言葉を使っていますので、高年者施策と書かれています。あえて高年者と表記する理由はあるということなののでしょうか。高齢者は65歳以上という規定がありますが、高年者はそういう意味ではないということなのか、それとも高齢者とイコールなのか。若年者に対して高年者という言い方なのですか。

(事務局)

法律で必ずしもこのような表現にしなければならないということではございません。現在の第四次総合振興計画は平成28年から運用していますが、第三次の頃から高年者という形で使っています。高年者プランでも高年者を用いています。

(会長)

文言はそれに合わせた形で「高年者」に統一していくということによろしいと思います。地域包括、介護保険など自治体として必ずやらなければならないことがしっかり書かれているかどうかというところ、もう一つは社会参加、生きがいづくり、プラスアルファとしてどうやって高年者施策のクオリティを上げるか、そういったところだと思っておりますがいかがでしょうか。

(小川委員)

高年者についてですが、一般的には高齢者で、選挙等では草加市議も高齢者を使用しています。一般的な高齢者に統一したほうがいいのではないかと。高年者の年齢は高齢者と一緒なのか、違うのか。

(会長)

おそらくそういった定義の問題になってくると思います。例えば65歳という区切りで高

年者と見るのか。

(小川委員)

高年者であれば高年者とはこういう年代の人である、と併記したほうがいい。

(会長)

どこかにそういった高年者の定義の説明を入れるということですね。

(小川委員)

意味は一緒でも言葉が違うわけですから、そう思います。

(事務局)

注釈をつけるなど、紛らわしくないようにします。市でも後期高齢者という言葉は使っています。

(会長)

後期の場合は後期高齢者と、一般的なものと合わせているのですね。

(事務局)

前期高齢者、後期高齢者と、「高齢者」をそのような形で使っておりますので、それらを含めて高年者という形です。前期高齢者が65歳から74歳、後期高齢者が75歳以上となっておりますので、単純に高齢者とすると、現在使っている前期・後期がついた高齢者と曖昧になってしまうので、注釈を設けるなどして紛らわしくないようにします。

(会長)

担当部局にも統一的な解釈があると思いますので、前期高齢者、後期高齢者、分かりにくいということですのでそれを一括りで高年者と呼んでいるということですね。

統一感が大事ですので、あるところでは高齢者となっていて、あるところでは高年者となっているのはよくない。そういう意味では高年者に統一されているということです。

## ② 施策19「子育て支援の推進」

(資料19に基づき事務局より説明)

(会長)

児童福祉から子育て支援の推進に名称が変更されたというところ、これは国も肝いりの施策であります少子化対策・子育て支援、非常に力を入れているところで、草加が国の支援プラスどこまでできるかというところも課題になってくると思います。

(浅古委員)

出生率が下がっているということは、昨今の話ではなくずっと下がり続けているわけですよ。先ほど他市との比較が出てきまして、流山市は情報発信が行き届いているということでした。これは前回の振興計画の中でもおそらく問題になっていたと思うのですが、その後どういう施策を立てて現在に至っているのでしょうか。

(会長)

草加市の出生率は埼玉県下で32位、1.09と低い水準になっているのですが、この辺りの分析はできているのでしょうか。なぜ他市に比べて低いのか、何か理由があると思うのです。国の平均値よりかなり低いということもございます。ずっと低い状況が続いているのか、低くなってきているのか。

(事務局)

現状といたしましては、国よりもかなり低い、県内でも低い状況です。コロナで下がった他自治体では数値が改善傾向になっているのですけれども、草加市は依然として低いままという状況になっています。

(会長)

コロナの前も後も低いということですか。

(事務局)

低い状況です。そういった中で、市としてはアンケートなどでの具体的な理由の把握までは至っていないのですけれども、考えられるものとしては先日もあった30代の転出入が多いということで、子どもを産み育てる年代の方の移動が原因として挙げられます。

(会長)

子育て世代がうまく市に入っていない、いたとしても出ていってしまうことがずっと続いてきたということですね。

(浅古委員)

第一期、第二期でも同じ問題があったと思うのですが、改善のためにどういう施策を実施したのかということです。

(会長)

ここに書いてある課題はそのまま継続でしょうか。これらの計画を踏襲する形を取っているのか、新しいものが加わったのか、こちらについてはいかがでしょうか。

(事務局)

基本的には踏襲しています。具体的に何をしたかというところでございますが、先ほど資料で出させていただいたぼっくるん、その下の情報発信のところの動画は新しい取組でございまして、ぼっくるんに載せる記事は子育て世代の市民が情報収集をしています。取組としてはできるだけ情報発信のところなどは強化してやってきたというところでございます。

(浅古委員)

危惧しているのは、ずっと踏襲でやっていると、同じラインにしかならないのではないかと思います。もっと強力な施策を実施しないと意味がないと思います。

(会長)

他自治体がかかなり斬新なことをやっていますので、踏襲でいいのかというご意見だと思います。

(事務局)

児童福祉関係施設のあおば学園を新しくしたり、松原に児童館を新設したりするなど、子育て支援としてハード系の事業にも取り組んでいます。全くこれまでやっていなかった新たな施策は当然考えていかなければならないというところも考えてございます。

(会長)

個別具体的な施策については子どもプランがありますので、そちらで実現していくと思うのですが、例えば「待機児童ゼロを目指す」と書いてありますけど、まだ待機児童がいるわけですよね、何人か。特に1歳児が令和4年には数名いると。待機児童ゼロがトレンドになってきていますので、待機児童がいる自治体はかなり厳しく、いると選ばれないということになる。これは早急に実施することが必要です。「待機児童ゼロを目指します」ではなく「実現します」にしておかないとかなり後れを取ってしまう可能性があります。

既存の保育施設を活用し、お金をかけずにやりくりで待機児童解消を目指すことはいいと思いますが、これで解消という見通しなのか、エビデンスがないと。ゼロにならないことが分かっていることを書くことは難しいと思います。

この辺りはいかがでしょうか。つまり1歳児の待機児童をゼロにするということで既存の施設を使って保育士の配置だけを変える中で本当にゼロになるのかどうか。これはかなり市民の皆さんは見るところだと思います。

(事務局)

現状では、これで待機児童ゼロが実現できるかどうかこの場でお答えするのは難しいのですが、保育園の新設をする予定は今のところはない状況です。

(会長)

公立の保育園を増設することが難しいことは分かっています。民間保育園を活用するとか、そういう考え方もあると思います。

(事務局 (部長))

0、1、2歳児を含めて待機児童ゼロということは重々承知しています。公立、民間も含めて、幼稚園も3歳児から見ているので、全体で保育を見ていくことを考えています。保育士の数は急に増やせないで、官民の役割分担を考えて検討しているところです。

(会長)

ぜひそうしていただきたいですね。民が強い部分は任せ、公立でサポートしなければいけないところはきちんとサポートしていく、こういった棲み分けみたいなものも必要になってきますね。

(延原委員)

今お話を聞いていると、子育て世帯を増やすことに力を入れていくということで、合計特殊出生率を上げることをあきらめているように聞こえます。合計特殊出生率の低さの原因として子どもを産む世代が外に出てしまうからというお話もありましたけれども、合計特殊出生率は15歳から49歳の女性の年齢別出生率を合計したもので、その年齢の人がいなくなることにあまり影響を受けない指標です。なぜ草加市は合計特殊出生率が低いのかとい

うことは、市として分析し、今回ここに入れるのは難しいでしょうけれども、対応方針を検討されたほうがいいのかということと、情報発信はもちろん大事なのですが、情報発信をしていく中でキャッチーな施策みたいなものがないと、なかなか世の中で取り上げてもらいづらいと思います。ただ情報発信することだけではなく、情報発信するところにどういうものを載せていくか、そういった工夫もされたほうが良いと思います。

(会長)

ちなみに6ページの下に、さいたま市、つくば市、千葉市、町田市、流山市は転入超過と書いてあります。なぜ子育て世代がこれだけ転入するかというと、町田市の場合は大規模開発が行われたからです。ちょうどファミリー層向けのマンションが乱立したのがこの時期で、ここまで劇的に上に来るとするのはそういった住宅問題が大きく絡んでいます。上位にはスケールが大きい住宅開発があったところに来ていたりするので、子育て施策がうまくいっているかどうか、とはまたちょっと別なのかという気がしています。出生率にはそういったものも入ってきますので、一概に子育て施策がうまくいっていないから1.09ということではなく、いろいろな事情がある。そういうことを加味して、委員の皆さんからの話にもありましたとおり、低い理由を市で分析し、それがなかなか解消されないということであれば、計画の中にそういったものを解消できるような取組を溶かし込んでいくことが必要になってくると思います。

(小川委員)

流山のおおたかの森、柏等、大規模開発を開発途中につくばエクスプレスの駅に「子育てするなら流山」と看板が立っていて、何だこれと思ったことがありますが、そういったところを加味している部分も非常に大きいと思います。

この施策だけではないのですが、まずは役所の中のDX化を極端にやらないと駄目だと思っています。これに関しても結局保育園の申し込みでもいろいろな書類を提出するなど、面倒なので、そういうものを解消することによって利用したいと思うようにDX化を進めたほうが良いのではないかと思います。

(会長)

保育のDX化について、市はどのような状況でしょうか。

(事務局)

保育の申し込みについては、DX化まではいかないのですが、これまでは必ず窓口に来ていただいていたのですが、今は郵送に変わってきています。

(会長)

埼玉県下では今DX化の実験段階です。これがうまくいくとかなり楽になるということですから、実用化まではもうちょっとあるかと思っています。

(事務局)

新庁舎では書かない窓口として、情報を打ち出したものを出し、手間を省くことをやっています。保育はそこだけでは済まないことがあるので、なかなかそこまでいかない状況です。

(会長)

皆さんの少子化や子育て支援に対する思いは非常に強い。このままだと出生率も上がらない、人口も減りはしないけれども増やすことは難しいのではないかという危機感からこういうご意見をいただいていると思います。

(三井委員)

この表を見ると、なぜここの地域の数字がいいのか悪いのか、一目瞭然だと思います。つくばエクスプレスの関係では、柏、流山。町田にも素晴らしいまちができています。獨協大学前に新しいまちができたり、バイパス沿いにも戸建ての住宅ができたりしているので、やはりハード面でももう少し力を入れていかないとソフトだけでは難しいと感じます。

(会長)

ここの部分に入れるかどうかは別として、そういったハード、ファミリー層を呼び込むための住宅施策、まちづくり、こういったところも合わせて必要ですね。

(三井委員)

松原団地にスーパーがオープンするので内覧会でお邪魔させていただいたのですが、隣の大きな公園でお子さんがたくさん集まって遊んでいました。そのようにまちづくりも大事なのかなと思いました。

(浅古委員)

第一期、第二期でも同じようなことが言われていたと思うのですが、出生率が上がらなかったことの分析とその対応策を具体的にしないと、また同じような数字が次回も並ぶのではないかなという気がするのです。

(会長)

出生率のアップをKPIに入れている自治体も結構多い。例えばこれを1.3、1.8に引き上げる等、おそらく草加市のまち・ひと・しごとの総合戦略では目標として入れているのではないかと思います。なぜ上がらなかったかはおそらくそちらで検証していくことになると思います。そちらできちっと分析をしていただいて次の施策に生かすということはぜひお願いしたいと思います。

(野上委員)

PTAをやっていて、児童クラブにも入っていたことがあり、支援員不足、待機児童が多いと聞いていました。今でもそれが解消されず、児童クラブも第1、第2があり、第1に入りたいけど入れずに第2になってしまうという子どもが増えているということで、支援員不足、支援員さんの待遇、学童での過ごし方にも課題があると聞きます。子どもたちが安全・安心に過ごせる活動をしているのですけれども、待機児童は大きな問題になっていて、解消されればいいのですがうまくいかない部分があります。

(会長)

待機児童の場合数字が出るので、何名いるかということが外に見えてしまうので、子育ての計画の中で待機児童ゼロをうたって、様々な施策、試みをしていかなければならない。そのための骨格となる計画です。1歳児だけではなく放課後児童クラブなどいろいろとありま

す。そこに入りたくても入れない人もいらっしゃると思います。支援を受けたいと思っている人が預けたりできるような、待機児童ゼロになるような仕組みをぜひつくっていただきたいと思います。

(延原委員)

放課後児童クラブの支援員の確保はぜひしっかりと進めていただきたい。結構いろいろな事故やリスクがあり、アレルギーの子どものアナフィラキシーショックの問題もあります。ただなかなか十分な研修を受けられていないなど問題になっているので、ぜひこのところはやっていただきたいと思います。

### ③ 施策29「人権の尊重」

(資料19に基づき事務局より説明)

(会長)

男女共同参画の中で、LGBTQや性の多様性に関するところ、これが一切触れられていないのですけれども、今埼玉県では各自治体に対してパートナーシップ制度の導入を働きかけたいと言っていますし、東京都もつくりました。こういったことは文言として全く入れなくていいのか、いかがでしょうか。

(事務局)

草加市においてもパートナーシップ宣言を行っておりますので、こちらに記載がないことで、やっていないように感じる方もいらっしゃると思います。

(会長)

文言として触れていないので、入れたほうがいいですね。

ほかとのボリューム感、バランスを見ると草加市は平和教育に力を入れていますね。

多文化共生について、外国人の割合が増えているので民間との連携など、様々な連携が必要になってきます。支援も、多言語化を取組んでいますけれども、こちらも盛り込まれています。例えば隣の川口市では多文化共生、外国の子どもたちに対する支援などのボリュームが多くなります。これも市によっていろいろと違います。

(延原委員)

人権教育の推進で、学校教育の話が出てくるのですけれども、学校の中で人権と言うと、子どもたちの間のいじめ問題、先生による児童の差別などがあります。改めて教育するというより、子どもたちには日常のそういうところこそが人権意識を育んでいく上で非常に重要ではないかと思うのです。そういった視点を入れられないかなという気がしました。

(会長)

学校教育の中での人権教育をこれまでやってこられたということですが、先生同士で様々な研修をする機会、授業などで人権学習をする機会もあると思います。担当は教育委員会になると思いますがこの辺りはどうでしょうか。今までと同じような表記でしょうか。

(事務局)

表記は従来と変わっていません。



(会長)

状況が多様化していることは間違いなく、教育のメニューも含め、バリエーションを増やすことが必要になってきます。多様化している中で様々な人権に関する問題が出てきているので、それを子どもたち、指導する先生方、こういったところへの研修や教育をやっていただきたいということと、いじめの問題であれば保護者を巻き込んで地域の方と連携しながら進めていくことも必要になってくるかもしれません。

#### ④ 施策33 「心と体の健康づくり」

(資料19に基づき事務局より説明)

(浅古委員)

草加市民病院には産婦人科がしばらくない状態が続いていますけど、今現在どうなっているのですか。

(事務局)

婦人科は再開の見込みがございまして、産科はまだ来ていただける先生が見つかっていない状況です。

(浅古委員)

施策の柱②で「妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の充実」と書いてあり、市立病院に産婦人科がないというのはとんでもない話だと思います。

(事務局)

市長も自らいろいろ病院をあたって、医師を連れてこられるよう働きかけています。

(小川委員)

確か市内には出産ができる病院は2施設しかないのですよね。そこでは難しい出産に対応できないので、その場合は例えば聖路加病院など24時間対応可能な病院での出産となり、通常より費用もかかるため、出産時の補助金では足りないのですよね。市内で対応できる病院がないのであれば、暫定的にでも費用を支援するような施策の必要性があると思います。

(会長)

40万円が補助金として出るのであれば、もしお金がかかった場合市が独自に上乗せをするということもあります。これは少子化対策の一環として、妊娠・出産にお金がかかるのでその費用負担を軽減するという施策として展開しているところが多いのですが、これを独自にやるかどうか。この中に書き込まなくても施策としては必要で、そうしなければなかなか少子化対策に結びつかないというご意見だと思います。

産科は、どこも大きな問題でなかなか難しいです。産科医自体が少ないということはもちろんですけれども、そもそも産む人が減っている。昔であれば年間200人、300人の子どもが生まれていたが、それが1桁になっている自治体もあるわけです。子ども自体が生まれなくなってきている。こういう中で産科を志す若者も減ったということもあります。なかなか産科医の確保は難しく、年俵を5,000万円出すから来てくれというような自治体もあるようです。今、市長が頑張っているというお話もいただきましたので何とか産科の確保

を、これはここに書き込むことではないのですが、一方ではそういったことも必要になってくるということだと思います。

(延原委員)

施策の柱④「国民健康保険の推進」は日本語としてどうなのでしょう。国民健康保険は市町村が運営する公的医療保険です。記載内容は国保加入者の特定健診の受診率向上となっています。

(会長)

むしろ「特定健診の受診率を上げる」と書いたほうが分かりやすいですね。

(延原委員)

国保の話ではデータヘルス、KDB（国保データベース）の活用等ほかに書くことがあるような気がします。

(会長)

そうですね。もしこれであればもうちょっとほかの記述が必要になってきますし、これだけであればむしろ「特定健診の受診率向上」としたほうが分かりやすいというご意見だと思いますが、事務局、こちらについてはいかがでしょうか。

(事務局)

こちらの施策の柱を「国民健康保険の推進」とさせていただいているのは、この下に紐づく実施計画の中で国民健康保険の特別会計の事業が入ってございまして、国の制度なので市がどうこうできるわけではないのですが、市として適正に運用していくという部分はお伝えしたほうが良いということから、「国民健康保険の推進」とさせていただく中で市が独自にできる部分を示しています。

(会長)

受診率アップはその中の施策の一つということですね。文言は第二期と変わっていませんが、文言も含め一度検討したほうが良いかもしれません。委員の皆様から分かりにくいというご意見がありました。

(延原委員)

施策名が「心と体の健康づくり」という割には心という部分の表記があまりないので、ちょっとちぐはぐな感じがします。

(会長)

確かにメンタルに関する表記があまりないですね。子どもたちが健やかに成長、発達とあり、この中に溶かし込んであるということでしょうか。

(延原委員)

自殺等の問題もかなり大きいです。若い人はほかの病気が少ないので自殺率が目立ちますが、高齢者もかなり自殺率が高いですし、心の問題は対応するべきことが多いと思います。

(事務局)

心の部分については、関連分野別計画の「そうか みんなで 健康づくり計画」で、体の領域、心の領域といった形で具体的な内容の記載がありますので、この辺りから基本計画にどのように記載できるかということを見直したいと思います。

(会長)

心という文言がもう少しあってもいいのかなと思います。健康教室、健康相談の中に心に関するものも含まれているということなのだろうと思います。こちらは検討いただきたいと思います。

#### ⑤ 施策4-1 「広域行政・官民連携の推進」

(資料19に基づき事務局より説明)

(会長)

広域行政、官民連携とありますけれども、主に官官連携、官学連携、官民連携という形になっています。官民連携は包括協定が中心で書かれていますけれども、例えば指定管理や業務委託等、連携の仕方はいろいろあると思いますが、これはここには含まれないということでしょうか。これは包括協定ということでしょうか。

(事務局)

こちらでお示ししている官民連携は包括協定という意味です。

(会長)

それ以外の部分、指定管理業務などは別ですね。

大学についてもこれまでは獨協大学が市内にあるということで取り組んでこられたのですが、文教大学もキャンパスは都内足立区ですけれども、谷塚が最寄り駅で、そういう意味では地元も今後の連携を模索しているというところだと思います。

草加市のイベントに参加した際、民間は大学との連携をしたいが敷居が高いと感じ、どうすればいいか分からないという話をいただきました。できれば行政が間に入りコーディネートをしていただけるとすごく助かるという話もあったので、大学と連携する際に、2者連携だけではなく、例えば官学民などの連携も、ある程度想定するというところでよろしいですか。

(事務局)

対外的には2者的な意味なのですけれども、その2者で連携をさせていただくというところで、例えば間にデザイン会社が入ったときにそちらのサポートをさせていただくケースもあります。

(会長)

3者間の連携、場合によっては民と学とをコーディネートする形での参加、いろいろな連携の仕方があると思いますので、こういったことも想定しているのだと思います。

(事務局)

補足ですが、個別協定というところでは3者で協定している事例もございます。現段階では2者の協定が多いのですが、ここは臨機応変に検討させていただきます。

(会長)

連携は大学としてもウェルカムだと思いますから、いろいろな連携のバリエーションができるといいですね。一つの課題解決に向けてこういった3者間の連携ができるといいと思います。事例紹介という形でそれが広まっていくといいなと感じます。

(榎本委員)

埼玉県東南部都市連絡調整会議と埼玉県南4市まちづくり協議会の違いですけれども、分かりやすく言えば草加市・越谷市・八潮市・三郷市・吉川市・松伏町はごみ処理の関係の集まりではないかと思うのですけれどもね。ですからはっきり焼却場の問題等を入れると分かりやすいと思いますが、そうではないのですか。

(事務局)

確におっしゃるとおり、リユースの関係で実際に今協働している自治体ではあるのですが、平成3年ごろから全国的に市町の合併を推進していこうという機運があり、東南部都市連絡調整会議自体はその動きを検討するため取組を進めたものです。

(会長)

いわゆる合併論議があった頃からで、かなり古いのですね。

(榎本委員)

この5市1町と4市との中身の色分け、違いを分かりやすくしたほうがいいのではないかと。5市1町はごみ全体の話を担っているのですよね。

(事務局)

5市1町でごみ関係をやっているのですけれども、それは東埼玉資源環境組合という一部事務組合がやっているものでして、あくまで5市1町でごみは進めているのですけれども、こちらに記載のある東南部都市連絡調整会議の中でごみ処理の関係をやっているということではないです。

(会長)

たまたま市町が一緒なのですけれども、組織としては違うということです。よくあるのがごみや介護保険等を広域で連携する場合、それぞれ組合等をつくるケースが多いです。ここでは公共施設の相互利用、課題に関する調査研究を、行政同士が一緒にやっています。

(事務局)

公共施設を予約する「まんまるよやく」を、各市町で費用を出し合っているのが連絡調整会議です。その他にリユース、ごみ問題、環境などの集まりもあります。調整会議自体はいろいろなものをまとめて調整していく会議体で、そこから派生していくという流れになっています。

(会長)

4市まちづくり協議会はまた別の自治体で構成されているのですね。これはなかなか活動がないという実態があるそうですけれども、こちら組織としてはあるということです。

(三井委員)

5市1町で構成する会議体について、この文章を見ているとまんまるよやくだけに特化しているような気がします。私もよく利用しているのですが、主に草加市内の公共施設を利用するときに使っているだけなのですね。まんまるよやく以外に協働で実施していることをもっと書き込んだほうがいいのかなと思います。

(会長)

現状がそうなのですけれども、施策の柱に入っているの、これを推進していくと書いてありますから、今後はまんまるよやく以外のことを進めていく可能性があるという表記です。

(事務局)

カラー刷りの資料ではまんまるよやくをメインに出させていただいていますが、実際の施策となる86ページには広域行政の推進の柱の下の部分、「公共施設の相互利用や広域的な課題に関する調査・研究」というところで、広域的な課題であるDX化、多文化共生といったところの協議会も別に設けさせていただいて、情報交換、報告書作成で今後に向けた対応の検討もしておりますので、まんまるよやくにプラスし、こういったところも盛り込んでいきます。

(浅古委員)

埼玉県東南部都市連絡調整会議、埼玉県南4市まちづくり協議会はいつからですか。

(事務局)

平成3年に開設されています。

(浅古委員)

30年たって、具体的成果はどういうことなのでしょう。

(事務局)

具体的には先ほどのまんまるよやくや、そのセキュリティ的なところですか、カラー刷りの20ページにも写真でお示ししているのですが、5市1町の公共施設利用を促進するようなまんまるガイドマップの作成は実績としてございます。DXの関係では、AI、RPAの調査研究ということで、5市1町でどう連携してそういったものを取り入れられるかについて報告書も作成させていただいております。

(浅古委員)

かなりのんびりした印象の内容ですけど、例えば具体的に、都市直下型地震が起きた場合、どのように連携するかというような話はしないのですか。

(会長)

可能性はあると思います。広域的なものだと、防災、観光、DX、医療、こういったところは1市単独ではなかなか難しいので、情報共有できる場は必要になると思います。そういうことはおそらく調査研究の中に入ってくると思います。

(浅古委員)

30年もたって、何も成果がなくては意味がないと感じます。

(会長)

例えばコロナもそうですけど、今後出てくる課題に対して、こういった会議体がなくなってしまうのは問題があり、何かあったときにすぐに課題共有できる、そういう意味ではここに表記することは意味があると思います。ただせっかくですからぜひ続けていただきたいと思います。

(木村委員)

5市1町のお話が出たのですが、実はマイスカイプランというものがあったのですね。仮称100万都市構想というもので、合併を狙った話だったのですが、その先駆者として青年会議所の合併をやってきて、総会で青年会議所の合併が途中で駄目になったという話がありました。

(会長)

当時合併の機運が高まって、市域を超えた連携の機運が高まった時期があったので、その頃につくられたものなのですね。ただ実態としてはやはり課題もあるので、今後広域的な課題についてはぜひこういう場を利用して、様々な討議、調査研究をやっていただきたいと思います。

5つのテーマについてお話いただきました。予め確認していた施策はこれで終わりなのですが、ほかにも後半部にはいくつか施策がありますけれども、ここで共有しておきたいことやご質問・ご意見があれば、少し時間がありますのでいただければと思います。

後半ということになりますと施策18より下ですから学校に関すること、子ども、教育、それから自治に関すること、地域福祉、障がい者、文化、スポーツ、市民活動、市役所の情報化、市政の透明性など市役所改革、こういったところも入ってきます。何か改めて確認しておきたいこと、よろしいでしょうか。

時間も迫ってまいりましたのでご質問・ご意見がある場合は、いつものように質問用紙に表記の上、事務局にお送りいただければと思います。

5施策に皆さんからご意見をいただきましたので、事務局に一旦持ち帰っていただいて、その意見を踏まえて場合によっては修正が入る場合もあります。また次回皆さんと共有し、まとめていきたいと思います。本日については意見なしということで終了とさせていただきます。それでは事務局にお返しします。

## 6 その他

(事務局)

会長はじめ委員の皆様、長時間にわたりご審議いただきありがとうございます。最後に事務連絡をさせていただきます。

1点目でございますが、本日の会議録につきましては、作成次第、署名委員の木村委員、山田委員に送付させていただきますので、署名をお願いしたいと思います。

2点目でございます。事前に文書でも通知をさせていただきましたが、次回、第6回の開催日につきましては当初4月20日(木)を予定しておりましたが、スケジュールの都合により4月10日(月)に変更させていただいております。直前のご案内となり大変申し訳ございません。ご都合がつかずご出席ができない委員様におかれましては、お手数ではござい

ますが予め事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。

なお、会場は本日と同じこちらの会場で、時間も午後7時からとなります。

## 7 閉会

(事務局)

以上をもちまして第5回草加市振興計画審議会を閉会させていただきます。

本日はありがとうございました。

以上